

事業所名

きずな（未就学から小学校高学年 対象）

支援プログラム

作成日

令和6 年

11 月

1 日

法人（事業所）理念	児童との心のきずなを深めたい・親御さん（保護者さん）とのきずなを深めたい・職員とのきずなを深めたい ※この3つの柱が願いであり名前の由来であります。		
支援方針	未就学から小学校高学年が対象で主にレクリエーション等の諸活動にて、まずは楽しさの中からルールや社会性、人間関係、愛着形成、コミュニケーション等を育む場です。そして安心して過ごす中で自分の居場所と感じられたり、個々の才能を見出す場でもあります。		
営業時間	9 時 0 分から 18 時 0 分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	①身支度の定着 ②挨拶や規則正しい習慣 ③清潔保持やマナー ④心の居場所	→自分でできることが増えるように必要に応じて支援する。 →挨拶や時間の流れにそって行動することができるように、事業所でも挨拶やタイムスケジュールに沿って活動を支援する。 →身だしなみ（髪の毛や服装等）や一般的なマナー、言葉使い等を支援する。 →自分の居場所だと感じられるよう暖かな雰囲気づくりの支援を行う。
	運動・感覚	①色々な動きの経験 ②余暇活動での体験 ③姿勢保持	→楽しく体を動かしながら色々な動きが経験できるように支援する。 →レクリエーションやスポーツ体験等で運動を行い、余暇の拡充を支援する。 →諸活動で椅子に座る姿勢や等の姿勢保持の助言や支援を行う。
	認知・行動	①視覚的なアプローチ ②行動障がいへの対応	→諸活動の内容やスケジュールを視覚からの情報を提示し、認知して行動できるよう支援を行う。 →一人ひとりの特性や課題に応じて、目標を設定し支援を行う。
	言語 コミュニケーション	①意思表示の確認 ②言語による意思表示 ③言語の形成	→言葉の表出が難しくても、ジェスチャー等で環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 →行動ではなく言葉で意思を伝えられるように、言葉を添えたり、言葉にしたことで思いが通じたという経験ができるように支援する。 →自発的に発声できるように支援する。
	人間関係 社会性	①情緒の安定 ②安心感・信頼感 ③他児との関わり ④集団への参加	→小学校へのライフステージへの移行で見えない不安な気持ちを抱えてる児童に対し、気持ちを理解して寄り添った支援を行う。 →日々の生活のなかで安心して心を育めるよう、相談があれば親身に話を聞き「心の基地」の役割を果たせるよう支援する。 →楽しく遊ぶ中で物の貸し借りや順番などを経験し、ルールやマナーが身につくように支援する。 →個々のペースを尊重しながら、集団活動に参加できるように支援する。
家族支援	療育に対して家庭等での困り感を傾聴し相談援助を行います。又、希望されます方には臨床心理士よりカウンセリングの支援も行っております。年に1回は個人懇談をし、療育に対し家庭と事業所の共有を図っています。	移行支援	幼稚園保育園から小学校へと次のライフステージ（新たな生活環境の適応を見据えた）への移行支援を行います。又、幼稚園保育園の先生・学校の先生とも情報共有や引継ぎ等の連携も行います。
地域支援・地域連携	地域連携では市内の高校生ときずなに通所する児童と一緒に食をテーマに「地域交流会」を行っています。又、自立支援協議会（こども部会）に参加し、地域の連携や地域課題（社会資源の少なさ等）にも挑戦しております。	職員の質の向上	事業所内研修では「療育勉強」や各委員会に分かれて知識の習得に努めております（療育向上委員会・スキルアップ委員会・感染委員会）。又、可能な限り積極的に外部の研修にも参加しております。
主な行事等	主な行事は、保護者さんや利用児童の兄弟も参加できる「日帰りキャンプ」を毎年行っております。長期休みには、放課後では活動できないような活動や体験を行います。又、江別の花火大会に参加してステージ上でよさこいを発表し、社会の一員である実感を持てるような取り組みも行っております。その他、四季折々の活動や毎日違うレクリエーションを設定し、楽しみながら様々な経験ができるようにしています。		